



美容室レアナ 巨龍矢さん

美容師歴約30年。千葉県千葉市に美容室レアナを創業して20年を越した。一貫して個人事業主として、一店舗経営を続けてきた。いちスタイリストとして毎日フロアに立ち続けている。



美容室レアナ
千葉県千葉市中央区新田町4-25 パルサンライト1F
☎ 043-241-7443
<http://www.hairway-leana.com/>

20年以上、一貫して 美容師の矜持を守ってきた

千葉市で20年以上営業を続ける美容室レアナ。オーナーの巨龍矢さんに、これまで貫いてきたポリシーをうかがった。

「気がついたら20年経ってました。美容師は誰もが最初は『お客さまをキレイにしたい、喜んでいただきたい』という気持ちで仕事をはじめるといえます。技術者として、プロとしてカットが第一。何も変わりません。ただこれまでの経験は他では得がたいものです」

レアナに心を寄せるお客さまとのお付き合いは、当然長い。お母さんに連れられて来ていたお客さまが、いまでは立派な社会人といった例は数えきれない。巨さんは、美容業界のほうが変わったと感じている。

「僕が会社を株式にせず個人事業主を買ってきたのは、緊張感を失いたくなかったから。プロスポーツ選手はベテランでも練習を怠らない。うちのスタッフは全員勤続10年以上ですが、いまも練習するし毎日話すことと言ったら技術のことです。オーナーが自分の持ち物自慢をするのは何か違うと感じる」

実は昨年末、巨さんは店の解散を本気で考えたという。原因は、「慣れ」だった。

「お客さまに平気で『いつもと一緒にいいですね』と言う。切り残しがあっても『お客さまに気づかれないから大丈夫』と思う。そんな兆候が見えたときに、ダメだと思った。そこから今後自分がすべき仕事は何かを考え、結論に至ったのが毛髪改善でした」

カット、パーマ、カラー。髪が傷む原因は美容師が作っている。毛髪改善を成し遂げることが、プロとしての責任だと感じている。

「それにお客さまから『私が死ぬまで切って』と言われてるんです。お客さまのためにすべきことは続けることなんじゃないかな」

うちのスタッフは全員
勤続10年以上ですが、
いまも練習するし
毎日話すことと
技術のことですよ。

Tatsuya Watari

起業からこれまでに迫る！

敏腕オーナーの
ビジョントーク

Q 「お客さま優先」の美容師として
スタッフに徹底していることは？

A 「プロとしてウソをつかないということ。お客さまからのオーダーに対して『この髪質だとむつかしいですね』と答えるケースがあるけど、それはあなたの技術がないからでしょう、と言いたい。『髪が傷んでますね』と言ってトリートメントを薦めるのも、自分たちが痛めておいてお客さまのせいにしていないだろうか。自分の実力不足を言い訳、ウソで隠さないことを徹底しています」



つらいとき、迷いが生じたときは何でも紙に書く。そして創業時の想い、自分で書き上げたカットマニュアルなどを時折見返すという。



年に一回のスタッフ旅行。これまで国内外に赴いてきた。スタッフ同士、肩書で呼び合わずオーナーも平等に働くのがレアナ流だ。